

Title	國語索引(鈴木隆一編, 東方文化學院京都研究所刊)
Sub Title	
Author	松本, 信廣(Matsumoto, Nobuhiro)
Publisher	三田史学会
Publication year	1934
Jtitle	史学 Vol.13, No.2 (1934. 8) ,p.166(344)- 166(344)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19340800-0166

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

譯書の序文にメイエ氏自ら筆をとり印歐語比較の方法は極東語の研究にその儘眞似すべきでないと斷つてをられる如く吾人は西人の研究にたゞ追隨することは出来ぬが極東語比較研究の分野が邦人の手により開拓され、新たな研究手法の提供せられんことは今日の緊急事であらう。

本書の原著は人に貸して今手許にないので譯書との校合をなすことが出来ぬが著者の學問の良心は既にタキトウスの邦譯に於ても明かにされ、本譯書も充分信頼をもつて讀むことが出来る。ペダンチクな學者に多い難解な譯語を使用することなくよく原語を挿入して理解に便ならしめ極めて明快に譯出してあるのは譯者の手腕の凡ならざることを示すものと云へやう。殊に廿四頁にわたる精密な補註を加へ、著者の論文著作目録を添附し、「世界の言語」に掲載したメイエ氏の總序の譯を附加したりなど、譯書として近來稀に見る精密さを示し、なまじつかの著書より遙かに優つてをる。吾人は本書を凡そ言語に關心する士の是非机上に備へ玩味すべき書物として推薦する。因みに著者は新村博士門下の逸足、現に京都大學言語學の講師である(松本信廣)。

國語索引(鈴木木重雄編) 東方文化學院京都研究所刊

近時漢籍索引の作成事業が各所に企及されつゝあることは斯界の爲欣ぶべき現象である。京都研究所の創設せられるや廿四史索引製作の企圖せられしことは坊間に傳えられたがその未だ發刊せられざる中に今度小島教授の指導の本に鈴木氏の作成せられし國

語索引が先づ世に著はれ、多年の渴望を醫して呉れた。人名地名は云ふに及ばず各種事項を畫引によつて排列し一々その出所を列擧し綿密を極めてをる。此種の著作は製作者の適否によつて左右せられる所多く、或場合には全く使用に不便を感じる場合が多い。此點に於て本書はさすがに指導及び製作その人を得たりと云ふべく周到なる注意の本に纂輯せられ、頗る使用便利なかつ利益する所多き出版である。本書の如き萬代を益する良書を提供された著者の勞苦に期して深く感謝する(松本信廣)。

日本精神生成史論 上代編(鈴木木重雄) 理想社出版部

本書は日本の國の生立ち——著者鈴木重雄氏の眼に映つた日本の生立ち——の姿を寫したものである。氏は古事記日本書紀に對する用心と共に本書を讀む人は氏自身に對しても用心することが必要であるとされ、

私がこれから述べるところは、私に見えた日本の原形真相であることは言ふまでもない。私に見えたものである以上、私の個性に依つて歪められて居るかも知れない。歪めるつもりは毛頭ないが、無意識の内にかかる結果を招いて居るかも知れない。

といはれるが、結局氏が自我意識から出發する以上氏の個性が表現されるのは當然であり、我々は氏の個性が表現されてゐる文化的生産として之を觀れば足りるのである。

元明の和銅五年(一三七二)元正の養老四年(一三八〇)に成立した古事記日本書紀に依つて、古い建國當時の眞の相が分るだ